萬鉄五郎記念美術館
木の間通信
KONOMA
東和エリア
美術ニュース
no.18
2015.
6月号

「棟方志功 萬鉄五郎に首ったけ」展

2015年7月4日(土) ～ 8月30日(日)　●会場：萬鉄五郎記念美術館

青森県生まれの日本の近代版画を代表する版画家、棟方志功が、萬鉄五郎を敬愛し萬の自画像を生涯愛蔵するほど惚れ込んでいたことは、専門家の間でもあまり語られてきませんでした。このたび棟方と萬、両者の作品を対比しながら版画家・棟方志功に萬がもたらした意義を跡づけたいと思います。

●休館日　月曜日(祝日の場合その翌日)　●開館時間　8:30 ～ 17:00(入館は16:30まで)

●入館料　一般700円、高校・学生400円、小・中学生300円(20名以上の団体50円引)

上　棟方志功《釈迦十大弟子》　1939年　木版・紙　宮城県美術館所蔵
下　萬鉄五郎《口髭のあり自画像》　1914年　油彩・画布　萬鉄五郎記念美術館所蔵

講演会＆津軽三味線ミニコンサート

●日時　7月26日(日)　18:00 ～ 20:00

●会場　萬鉄五郎記念美術館　《参加無料》

●講演　石井頼子氏
(棟方志功研究・学芸員、棟方志功令孫)

●演奏　三代目 井上成美氏(津軽三味線奏者)

ワークショップ「棟方志功流 お茶の楽しみ」

●日時　8月23日(日)　10:00、14:00(2回)

●定員　各回20名(先着順)
8月1日(土) ～ 8月7日(金)までにお申し込みください。

●講師　石井頼子氏(棟方志功研究・学芸員、棟方志功令孫)

●参加料　2,000円

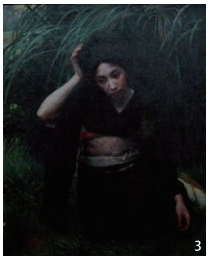
●会場・申込み　萬鉄五郎記念美術館　電話0198-42-4402

Logo design / 杉本吉武

「萬鉄五郎という存在」展

―萬鉄五郎とその周辺の作家たち―

2015年4月11日（土）～ 6月28日（日）　●会場：萬鉄五郎記念美術館



日本近代美術の先駆者・萬鉄五郎と、その同時代の画家たちの作品を同時に紹介することで、明治末から昭和初期にかけての日本近代絵画の状況と、岩手という地での地方美術がどうであったのかを概観します。萬鉄五郎とその周辺の中央の画家たち、そして岩手の画家の表現から、あらためて萬鉄五郎という日本を代表する画家の位置を再確認したいと思います。

●休館日　月曜日（5/4は開館し5/7休館します）

●開館時間　8:30 ～ 17:00（入館は16:30まで）

●入館料　一般400円、高校・学生250円、小・中学生150円 ＊20名以上の団体50円引

1. 萬鉄五郎《太陽と道》1912年頃／油彩・板　2. 萬鉄五郎《裸婦》1914年／油彩・画布　3. 五味清吉《秋草》1915年／油彩・画布

萬鉄五郎記念美術館 館長講座 ―絵画の見方とその歴史―Ⅳ

●期日　第1回　6月20日（土）　踊り子の画家《ドガ》

第2回　7月18日（土）　近代絵画の最高峰《セザンヌ》

第3回　8月22日（土）　点描の画家・新印象派《スーラ、シニャック》

●場所　花巻市役所東和総合支所1階 第1会議室　●時間　13:30 ～ 15:00

●講師　萬鉄五郎記念美術館館長 中村光紀　●受講無料

●問合せ・申込み先　萬鉄五郎記念美術館　電話0198-42-4402

喫茶「八丁土蔵」

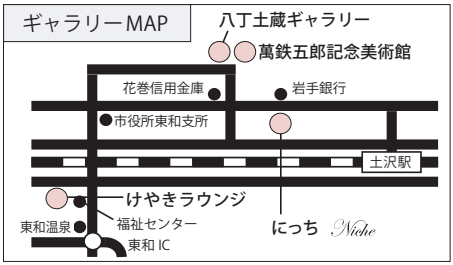
萬鉄五郎の本家「八丁」にあった土蔵を移築復元した、ギャラリーと喫茶スペースです。自慢のオリジナルコーヒー「蔵」「八丁」を、ぜひ一度ご賞味ください。　営業時間：10:00 ～ 16:00（lo.15:30）

美術の街「土沢」ギャラリー情報

萬鉄五郎記念美術館とあわせて「美術の街」土沢めぐりはいかがでしょうか。

【7・8月の土沢イベント情報】

8月6日(木)、7日(金)　土沢七夕まつり



萬鉄五郎記念美術館 八丁土蔵ギャラリー

花巻市東和町土沢 5-135 萬鉄五郎記念美術館内
9:00-16:30　月曜休（祝日の場合は翌日）　入場無料

iwate コンテンポラリーアート 田村晴樹 展

4/11(土)～6/28(日)

盛岡在住の版画家によるユーモラスで不思議な世界。

iwate コンテンポラリーアート 宇田義久 展

7/4(土)～8/30(日)

盛岡在住の画家。立体と絵画の境界に存在する作品。

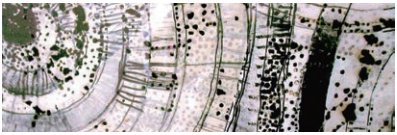
Gallery Space けやきラウンジ

花巻市東和町安俵6-90 東和図書館内 tel.0198-42-3205
10:30～19:00（最終日は16:00まで）入場無料

KAMIMURA KOUICHI 展

6/1(月)～6/30(火)

けやきの会創立会員。変幻自在の造形作家。



藤井千代 てしごと展

7/1(水)～7/31(金)

けやき初登場。地元の超ベテラン作家の日常手仕事。

世界の雑貨とギャラリー にっち Niche

花巻市東和町土沢8-115 こっぽら土澤1階
11:00～17:00　火曜定休　入場無料

木部一樹 作品展 ～光の中の鳥たち～

6/24(水)～7/6(月)

若き日に山小屋で暮らした体験から鳥に魅せられた作家が描く、命あふれる野鳥の姿。

及川雄太 作品展 -鬼神-

7/29(水)～8/10(月)

小さなアーチストが描く鬼神たち。土沢神楽の担い手でもある小学生の渾身の作品が、会場を埋め尽くします。

丁字路

館長コラム

揃物

前回同様「連作」について記す。浮世絵で連作を「揃物」という。西洋絵画でモネが連作の創始者であるが、その半世紀前に、葛飾北斎がすでに名所絵揃物として『富嶽三十六景』を連作していた。

北斎は、日本人のアイドル富士山と庶民生活を結びつけて、四季の移り行くさまざまな富士像を描いた。技法的に遠近法を活用、色彩は舶来の化学染料「ベロ藍」（プルシャンブルー）を使い、日本古来の本藍より色が沈まない紺青の魅力でヒット、後に十図を追加、四十六景の富士山連作となった。

役者絵と美人画を中心に人気を博してきた浮世絵の中に「風景画」のジャンルを創出したのは他ならぬ北斎である。特に晩年の70歳から75歳にかけて『富嶽三十六景』を筆頭に、『諸国滝廻り』『諸国名橋奇覧』『富嶽百景』の優れた風景画の錦絵揃物を生み出した。

南仏プロヴァンス生まれのセザンヌは、第3回印象派展に出品した後、制作の拠点を故郷のエクスに移した。身近なものを繰り返し描く習性のあるセザンヌは、やがてエクスの東にそびえるサント・ヴィクトワール山を中心主題として繰り返し描き続けた。『サント・ヴィクトワール山』は生涯にわたって描いたセザンヌの「連作」で、油絵で約40点制作した。そこには同じ山を何度も描いた北斎の『富嶽三十六景』の影響が考えられる。セザンヌの親友のエミール・ゾラが日本美術の愛好家であり、モネは多くの浮世絵を収集していた。セザンヌはモネと親しく交わり、彼のところに長期滞在していたことから浮世絵を多く見ていた。

北斎は、手前に大きなものを持ってくる「近像型構図」を『富嶽三十六景』で多用している。この構図は後の広重に影響を与えた。その三十六景のなかで『甲州三島越え』は、画面のど真ん中に巨木を配置しているが、この大胆な構図は西洋絵画ではあり得なかった。これを見たセザンヌはさぞ驚いたと思われる。そしてセザンヌは、この構図に誘発され、大きな松の木を中心に据えて、その遠景にヴィクトワール山を配した『サント・ヴィクトワール山』を制作した。そのほか『大きな松と赤土』や松の木の間から霊峰を遠望した『松の木のあるサント・ヴィクトワール山』など、前面に大きい木を配した近像型構図を作り出した。西洋絵画の束縛が解かれた。

萬鉄五郎記念美術館長　中村光紀

葛飾北斎
《富嶽三十六景「甲州三島越」》
1823年

ポール・セザンヌ
《サント＝ヴィクトワール山》
1885-87年
メトロポリタン美術館蔵

萬鉄五郎記念美術館　岩手県花巻市東和町土沢 5-135　Tel.0198-42-4402　8:30am. ～ 5:00pm.
yorozu00@cocoa.ocn.ne.jp　http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/503/p004177.html　月曜休館（祝日の場合その翌日）
発行人／東和町土沢商店街商店会連絡会会長小原茂明